

浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成19年9月

第24号

ゆるぎ無い 心のやすらぎは
如来(佛)の本願を この身にいただくことです

家庭は円満、仕事は順調、何事も上手く事が運び、楽しい人生を過ごせるときもありますが、突然病に倒れたり、失業に追い込まれたり、人間関係がこじれたり、次々と不都合なことが起こり、悩み苦しむときもあります。何事も自分の都合で事を運ぼうとするからそのようなことになるのでしょうか。自分の都合に合わせて、見たり、聞いたり、考えたりすれば、欲と欲がぶつかり合い、騙し騙され、裏切り裏切られ、心傷つき悶々とした日を過ごさなければならなくなるのは当然のことでありましょう。しかしこうした悩み苦しみを味わうからこそ「どう生きる」「何を頼りに生きる」という人生の一大事が問われるのであります。

人はよく、金さえつかめれば、権力を得れば、健康さえあれば、幸せな人生を歩めると言いますが、本当にそうでしょうか。以前にも書かせていただきましたが、墓参りに来られた方が、寺のお手伝いさんに「マッチありがとう！ライターを持ってきたのに使えなかったの。」という甲高い女性の声が私の耳に入ってきました。何でも無い会話ですが、その女性が「ライターを持ってきたのに使えなかったの」と言われたことに私は深く考えさせられたのです。その女性は墓参りをしようと花を求め、お線香を用意し、ライターを持ってこれで良しと思って来られたのでしょうか。しかしお線香に火を付けようとしたらライターの火が着かなかったのです。役に立たなかったのです。私達の人生もこれとよく似ているのではないのでしょうか。金だ、権力だ、健康だと言いますが、これらは必ず崩れ、失うものです。そうしたものは本当に頼りになるとは言えないのです。そうしたものにのみしがみついておりますと、いざというとき何の役にも立たず、泣かねばならなくなるのです。

それでは何時でも何処でも如何なる場合でも頼りになってくれるものはあるのでしょうか。蓮如上人は「お文一帖の十一 電光朝露」(意識)で『人間はただ雷光朝露の夢幻の間の楽しみです。たとえ、栄華栄耀の思うままの人生を送れたとしても、それは50年ないし100年のことです。もしたった今、無常の風が吹いて来れば、どんな病気で苦しみ死んでいくことか。そして死んでいくときはかねてより頼みにしていた妻子も財産も、何一つ力にはなってくれないし、三途の大河をたった1人で寂しく渡っていくことになるのです。だからこそ、今こそ深く願い求めなければならないのは後生であります。また、本当に頼みにできるのは阿弥陀如来だけあります。そして阿弥陀如来の本願をいただいて参るところは安養の浄土と思うことです。』と御教示くださいました。

秋の彼岸を迎えました。蓮如上人が申された、頼みとできる阿弥陀如来の苦しみ悩める人を必ず救うという本願をこの身にいただき、怒りも悩みも争いもない悦びと感謝の心が豊かに満ちた彼岸の世界を味わいたいものです。合掌
住職 高島利明

「中国九華山・蘇州仏教文化の旅」

高島美智枝

私にとっては長い7泊8日の中国の旅、体力、食事等の不安を抱えての出発でした。どうしても仏教に関わりの深い中国を一度は訪れたいという強い思いから参加させていただきました。総勢11名の方々との旅。上海空港に午前10時に着き、待ち受けておられた現地役人の方と専用バスにて九華山に向かいました。車中よりはじめて見る中国の民家、景色を眺めて山奥のホテルに着いたのがなんと夜の8時。ようやく夕食かとホッとしたのも束の間、口にする物すべてに拒絶反応。まだ1日目だというのに「どうしよう・・・」と思ったら目の前が真っ暗。これが私の第1日目でした。

九華山は中国仏教四大名山のひとつで、国家級の景勝地。地藏菩薩の道場として作られ、人民の風俗習慣は仏教の影響を強く受け、本当に素朴で、つつしみ深いものを感じました。丸い棒で布を叩きながらの洗濯風景、犬も鶏も放し飼い、どこを歩いても独特の匂いがただよっている。そんな中、食事も摂れないのに本当によく歩きました。不思議とあちらこちらに掲げられていた書の額が何とも心にやすらぎを与えてくれました。今回の旅の目的は日中友好親善と言うこともあり、北塔報恩寺、寒山寺、西園寺ではご住職自ら数名の修行僧と共に御出迎えくださり、感激いたしました。西園寺では1時間半にも及ぶ夕方の勤行に大勢の修行僧や信者の方々と共に読経や本堂を練り歩いたり得難い経験もさせていただき、その後ご住職様を囲んでの精進料理のおいしかったこと。蘇州に移動してからは連日おいしい食事をいただき、出発の時よりも元気になってしまいました。また、霊岩寺では、子供も含めたくさんの物乞いの人たちを横目にヘトヘトになりつつ登りましたが、門の中に1歩足を踏み入れるとなんと、85歳の大和尚様が合掌してお出迎えくださいました。そのお姿を拝し、いっぺんに疲れが吹き飛んだ思いでした。

帰国の日の早朝、ホテルの前の大広場で太極拳の仲間入りをしたり、初めて時速300キロのリニアモーターカーに乗せて貰いましたが、こんな高度な文明があると思えば、一方ドアもないトイレに入らねばならない何とも不思議な中国。色々問題あるニュースが流れる中国。しかしとても深みがあり、再び行ってみたいと思う何とも言い尽くせない思い出を抱え帰路につきました。来年は皆さんも御一緒しませんか？



今後のお知らせと予定

日付	本弘寺行事	婦人会行事
11月21日	報恩講法要	
平成20年1月1日	修正会(初参り)	
1月8日		新年会
3月18日~24日	21日午後1時半より彼岸法要	仏花販売・お茶接待